

令和2年度第3回 長野市総合計画審議会 会議録

日 時：令和3年2月12日（金） 午後3時から午後5時まで

場 所：講堂（第二庁舎10階）

出席者：委 員/ 青柳委員、荒井委員（リモート出席）、池尻委員、市村委員、伊藤委員、大日方委員、萱津委員、金物委員、川北委員、熊井委員、黒岩委員、小木曾委員、清水委員、轟委員、廣田委員、藤原委員、梅干野委員、牧野委員、宮沢委員、横地委員

長野市/ 倉島総務部長、酒井企画政策部長、清水財政部長、日台地域・市民生活部長、中澤保健福祉部長（代理：上田福祉政策課長）、小林保健所長、広田こども未来部長、宮尾環境部長、丸山商工観光部長（代理：神尾観光振興課長）、小林文化スポーツ振興部長、西澤農林部長、小林建設部長、岩片都市整備部長、倉島会計局長、樋口教育次長（行政）、永井教育次長（教育）、望月上下水道局長、佐伯消防局長、柄澤議会議務局長、鎌田危機管理防災監、伊熊公有財産活用局長、下平復興局長

事務局/（企画課）青木課長、瀧澤主幹、羽田課長補佐、東福寺係長、室田主査、平井主査、板倉主査、横田主事、小林主事、名取主事（人口増推進課）石井次長、宮下課長補佐、飛澤主査

1 開会

（事務局）

定刻になりましたので、これより長野市総合計画審議会を開会いたします。私、企画課課長補佐の羽田と申します。よろしくお願いいたします。

本日の資料の御確認をお願いいたします。事前にお送りいたしました、会議次第と資料集目次、資料1-1から1-3、資料2、資料3になります。

また、当日配布資料として、座席表と部局長の名簿、審議会委員の名簿をお配りしてあります。不足等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。資料に加えまして、昨年11月から改めて2年間の任期で委員に御就任いただきましたので、委嘱状を置かせていただきました。大変お忙しいお立場の皆様ではありますが、引き続きよろしくお願いいたします。

ここで、今回新たに委員に御就任いただきました、川北泰伸委員様を御紹介させていただきます。委員におかれましては、清泉女学院大学人間学部文化学科で教鞭を取られており、公共政策及びまちづくりが御専門でいらっしゃいます。過去に平成26年から30年まで総合計画審議会の委員をお勤めいただき、第五次総合計画の策定に携わっていただきました。後期基本計画の策定におかれましても、前期基本計画の策定の御経験

から、貴重な御意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
なお、作業部会については、退任された山崎委員様の後を引き継いでいただき、社会部会に入らせていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは、川北様から御挨拶をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(川北委員)

失礼いたします。川北泰伸と申します。よろしくお願いいたします。所属は清泉女学院大学で先生の仕事をしております。普段は学生と一緒に勉強をしていますが、こちらでも学ばせていただくことが多いと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

川北委員様ありがとうございます。2年間よろしくお願いいたします。なお、本日は、荒井委員様が御都合により、こちらにお越しいただくことができませんが、リモートにより御出席いただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、次第2の会長挨拶に移らせていただきます。それでは金物会長からごあいさつをお願いします。

2 会長あいさつ

(金物会長)

本日は本年度第3回目の会議ということでお集まりいただきまして、ありがとうございます。季節も数日前に立春を迎えまして、今日は割と天気が良いですけれども、まだ寒波がやって来ると思われますので、健康には十分お気を付けたいと思います。新型コロナですが、緊急事態宣言が関東、関西で出ておりまして、これがいつまで続くかであります。ワクチンもそろそろ出回り始め、私の大学の附属クリニックでもワクチン接種の申込書が回ってきましたので、いよいよという感じを持っておりますが、一般市民の全てに行き渡するには相当な時間が掛かるでしょうから、我々ができることは、3密を避けることやマスクをすることなど、やれることをしっかりやって時機を待つということだと思えます。

本日の予定ですけれども若者からの意見提案としまして、「長野市未来政策アイデアコンペティション2020」の入賞チームの学生さんからの発表と議事として、「第五次長野市総合計画後期基本計画の現況と課題及び目指す状態」(案)を御審議いただく予定としております。委員の皆様の忌憚のない御意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

3 若者からの意見提案

長野市未来政策アイデアコンペティション2020の入賞チームからの発表

(事務局)

ありがとうございました。

次に、次第3の若者からの意見提案に移らせていただきます。委員の皆様は資料1-1から1-3の御用意願います。

第1回目の総合計画審議会でご説明させていただきました、長野県立大学の学生の皆を対象とした「長野市未来政策アイデアコンペティション2020」の本選が、先月9日に行われました。

本選は、政策アイデアの提案をいただいた全28チームのうち、予選を通過した10チームから発表をしていただき、審査委員等による審査のうえ、優れた提案内容の3チームを表彰いたしました。

学生の皆様からは、「若者が集い、活躍するまちの実現」をテーマに観光や農業、起業家の育成、まちづくりなど幅広い分野に渡って、今後の市政に参考となる御提案をいただき、当日は当審議会から金物会長、廣田委員に審査委員として御参加いただきました。

また、藤原委員には、8月のプログラム開始当初から外部メンターとしてコンペ企画運営のコーディネイトや学生チームへのメンタリングに御参加いただくなど、御協力をいただきました。

コンペの審査結果ですが、最優秀賞に、資料の1-1になりますが、「～長野市在住の学生による観光促進事業～「長野だからこそその観光を」 人々を魅了する長野市の観光を考える」。優秀賞が資料1-2、「学生×(かける)農家民泊 ～みんな長野に鬼なさって」。特別賞が資料1-3、「どこにもない長野市の魅力を「リノベ・ブック」で発信し、若年女性の移住を誘う」の3チームを表彰しております。

本日は、入賞した3チームの皆様からオンラインにより発表をいただき、委員の皆様から御意見・御質問をいただく時間を設けてあります。発表は10分程度、質疑は5分程度を予定しておりますので、よろしくお願ひします。

それでは、最優秀賞に輝いたチーム12の皆様、発表をお願いします。

(長野県立大学生 チーム12より発表)

(事務局)

チーム12の皆様、発表ありがとうございました。委員の皆様、ただいまの発表について御意見・御質問がありましたら、よろしくお願ひいたします。

(清水委員)

質問が2点ありまして1点目は、弊社はもんぜんぶら座の目の前に事務所を構えておりまして、善光寺と駅のだ真ん中にあるので、コロナ禍になる前は1階の社会福祉事業

所に海外の方が入って来て、善光寺にはどうやって行くのかなど、色々なことを聞いてきてくれました。皆様のような方がいたらうちにいてくださいというのが一点目。つたない英語しかできなくて、ペラペラとしゃべられると言っている意味は分かるけれど、何を言ったらいいか分からない。皆様のような方が街中にあふれてくれればうれしいなと思うのが1点目です。商店会様が活発なので、一緒に活動されると良いのかなと思いました。

2点目は課題・現状のところ、居住する若者の確保がまちづくりには必須であるというのがメインテーマであって、そのあとインバウンドの話があり、わくわくはしたが、これをやることで居住する若者が増えるというところまで、自分の中に落とし込むことができませんでした。そのあたりで説明なさっていないところがあれば、御説明をよろしく願いいたします。

(長野県立大学生 チーム12)

アンケート結果の「それ以外の学生に残ってもらうには」というところですが、理想としては卒業した長野県立大学の学生が、長野市に残ってもらうのが理想です。どうしても就職で県外や実家へ戻ることがある中、どうやって関わっていくか考えた時にやはり、愛着を持ってもらうことが一番だと思っています。愛着を持ってもらうことで、将来、ふるさと納税や何らかの形で長野市に貢献できる学生の育成ができればと思いました。残ってもらうというのが一番ですが、少しでも長野市に貢献できる学生を育成したいというところで、観光をテーマにした提案をさせていただきました。

(清水委員)

ありがとうございます。私も関係人口は作れそうだと思います。同じ答えだったので、そうだったのかなと思いました。ありがとうございます。

(池尻委員)

素晴らしい発表をありがとうございました。学生さんらしくていいと思いました。清水委員さんと質問がかぶってしまうかもしれませんが、学生さんにはなるべく長野市に残ってもらいたいという思いと、長野市に愛着を持ってもらうということで、善光寺を中心としたボランティア活動をしたらどうかということですが、英語の授業以外に英語を話す機会がほしいですか、という質問が資料としてあがってきています。例えば愛着を持ってもらうのであれば、もちろん外人さんにもいいと思いますが、日本人へのボランティアもできると思いました。ここで英語を出してきた理由は何かあるのですか。

(長野県立大学生 チーム12)

御質問いただきありがとうございます。日本人の方に対しても、もちろんさせていただきますと考えてはいましたが、長野県立大学ではグローバルマネジメント学部がございまして、英語に力を入れています。2年生時に全員必須の海外研修があります。長野県立大学の強みは何かと考えた時に英語だと思い、主なターゲットとして外国人観光客になったということです。

(牧野委員)

質問ではなく感想でもいいですか。元地域おこし協力隊で移住して6年目になりますが、若者の人たちが地域のボランティアをして、愛着を持つとか、地域のことを自分たちが研修をして知ることによって愛着を持つというのは本当にそうだと思います。わたし自身も松代町に住んで、まったく何も分からずに来ましたが、観光親善大使を2年やらせていただいた時に、地域のことを知り、いろいろな歴史を学びそれを人に伝えることで自分も愛着を持つということを感じたので、すごく共感しました。ありがとうございます。

今、着物屋で働いているので、着物を着た街歩きを取り入れていただきたいと思いました。ショッピングプラザ・アゲインの4階「たんす屋」というリサイクルの着物屋で、レンタルはやっていないが、すごくリーズナブルに全部揃えられて、外国人の方も着替えて遊びに行くということをしているので、是非一緒にできたらいいと思います。

(事務局)

チーム12の皆様ありがとうございます。続きまして優秀賞を受賞されましたチーム28の皆様、発表をお願いします。

(長野県立大学生 チーム28より発表)

(事務局)

ありがとうございました。委員の皆様から御意見、御質問があればお願いいたします。

(川北委員)

発表ありがとうございます。質問が二つあります。若者が長野を知る機会が必要であるとありますが、長野の何を知る必要があるとお考えでしょうか。それに関連して、農家民泊は長野市でやる必要がどこまであるのか。話の中では農家に泊まればいいということなので、長野市でなくても他の自治体でもできる。長野市がやる必要性があるのか一つ目の質問です。

二つ目の質問は、お気付きの通り、私の出身が関西で、関西の人からすると長野の人

とのコミュニケーションの取り方が違う。良い悪いはおいといて、いつもよく感じるが、ホスピタリティの問題がありまして、コミュニケーションの取り方が違うので、ちゃんとやっていないのでは、やる気がないのではと感ずることがある。悪気があって言っているのではなくて、コミュニケーションの取り方が違うからギャップがある。そうなる農家の方はもっと大変な状況が起こる可能性があります。そのミスコミュニケーションと言ったらいいのか、どのように解消していければ、外から来た人たちの居心地の良さだとか、満足度を高めることをできるのでしょうか。お話の中では小中学生とあったので、そうなる親の要求はかなり高めだと思っております。よろしくお願いいたします。

(長野県立大学生 チーム 28)

御質問ありがとうございます。一点目について、私達が鬼無里に着目した理由ですが、鬼無里地区は長野市の中でも独特の伝統料理があり、囲炉裏のおやきや五平餅など伝統文化を継承しているというところが、鬼無里に着目した理由の一つです。伝統文化を知る機会から農家民泊に繋がっていくのではと考えています。二つ目の質問に繋がりますが、長野県の方は外部の方々からは「取っ付きにくい」、「硬い」イメージがあると県外の方から聞いたことがあります。そういう部分がありつつ一度打ち解けられれば、すごく仲良くなれるところも反面としてあるので、打ち解けるという部分では農家民泊を通じて、一緒に体験をすることで交流を深めることが、一番コミュニケーションを取る上で大事だと考えています。

(轟委員)

ビジネスモデルのことまで考えられていて非常にいいと思いました。資料 16 枚目の参加学生の補助のところ、具体的に補助金、農家の皆様の手取りから約 1 割ということで、なかなか今回、想定している小学生、中学生は正直、働き手にはならない子供たちが多く、農家の皆様の実際の必要性はどのあたりになるのか。是非来てほしいのか、やっても痛いのか。そのあたりを確認されていたら状況を教えてください。

(長野県立大学生 チーム 28)

修学旅行生の受け入れに関するシステムについてですが、長野市でのプログラムで修学旅行生を学校として受け入れています。一人当たり 7,000 円から 8,000 円を農家は手取りで受け取る。そのうちの約 1 割、約 1,000 円弱を一人当たりの交通費として支出してもらおうと考えています。

(轟委員)

そのあたりもそれぐらいだったら、大丈夫そうかなという雰囲気なのか、農家さんに確認していただければと思いました。

もう一点コメントになりますが、参加するパイプ役になる学生たちも勉強していて、それなりの知識も持っていると思います。本校、長野高専であれば、技術面でスマート農業のサポートができたりという可能性があるのですが、事務局が何かプラスαで農家の皆さんと一緒に何かできることを、小中学生と一緒にできたりするともっと面白くなってくるのではと思っています。

(長野県立大学生 チーム 28)

実際に農家さんに電話で取材をさせていただいた時に、手取りもこれぐらいの値段であれば、支出できるという御意見をいただき、それを参考に作らせていただいた。先ほど言っていたように農家さんのために知識を持った学生が、何かいい影響を与えられるようなシステムを作っていけたらと思っています。

(萱津委員)

素晴らしい発表していただいたのですが、やはり鬼無里は山間地ですので、農家離れがかなり増えています。荒れた土地もある。農家を離れて土地離れになっている。これからは自給自足の時代になっていきます。いらない消毒がかかったような野菜を未来ある子どもたちにあげるのではなく。無農薬の野菜を作ったりして、参加学生さんたちへの補助で新鮮な野菜をプレゼントとありますが、農家さんと一緒に鬼無里で作った新鮮な無農薬野菜ですと、ある一定の地域に売ってどんどん広げていただければ、鬼無里もあるいは鬼無里以外の山間地でもやる気が出てくると思います。是非素晴らしい御発案だと思うので、広げていただければと思います。

(長野県立大学生 チーム 28)

実際に私たちも鬼無里に体験しに行かせていただいて、ここで大日方さんという方に自給自足の生活、いかに環境に負荷をかけない生活をしていくかの大切さを学ばせていただきました。体験を小中学生と一緒にして広めていけたらと思っています。

(熊井委員)

この企画がやっと出てきたかというのが私の実感で応援したいと思います。アグリツーリズムという言葉がありまして、イタリアの農家がこれとよく似たプログラムをやり、観光の主体となって全世界に広がったプログラムです。農家に宿泊し1、2日体験して、それを旅行会社が企画として持っている。イタリアの観光の中でこれは非常に成功した例です。ひょっとしたら鬼無里で生まれるかもしれないという期待感を持ちました。是非インターネット、Web、ホームページを作ってください、宣伝していければ速攻になると思われますので、次の段階で考えていただければと思います。

外国人の方、特にヨーロッパの方は英語に興味がない。英語を学んで、農家でいろいろ

ると説明する機会はほとんどいないと思います。日本人の目を見て、態度を見てキャッチする能力に優れていますので、英語は必要のないプログラムを一つ作ってみてはどうですか。影ながら応援しております。

(長野県立大学生 チーム 28)

Web や SNS はかなり有効なツールだと思います。効果的に活用しながら広めていきたいです。外国人の方も今の状況ではまだ分からないが、将来的には呼び込めるように発展させていきたいと思います。

(事務局)

チーム 28 の皆様ありがとうございました。最後に特別賞を受賞されましたチーム 27 の皆様、発表をお願いします。

(長野県立大学生 チーム 27 より発表)

(事務局)

ありがとうございました。委員の皆様から御意見、御質問があればお願いいたします。

(川北委員)

二つ質問があります。一つ目はターゲットが20代女性、若い女性ということだと思いますが、女性の意識やキャリアの進み具合をどういうふうに捉えているのか。高校1年生と高校3年生の時に着ている洋服は違い、大学1年生と大学4年生でも着ている洋服は違うと思います。女子の20代はいろいろな変化が起こる10年間。その変化をどのように捉えて、この提案をされたのかなというのが一つです。

もう一つは、町のリノベに関わる人に話を聞きに行き、リノベという切り口で取り組んでいたが、調査にバイアスがあるのではないかと思います。つまりリノベに関わるお話をお聞きした3人はある意味お仲間である。長野市の移住を考えた時には、長野市のいろいろな側面があって、本来であればいろいろあっていいのではないか。調査の偏りがある気がするがどのようにお考えでしょうか。

(長野県立大学生 チーム27)

20代の女性意識やキャリアの変化をどう捉えるかの質問ですが、県立大学の学生と議論をしていく際に、20代の女性がほとんど選択する進路として、大都市圏の会社に勤務するというのがほとんどだという話になりまして、ここで働くというのが正解なのではなくて、同世代の女性がリノベーションというかたちで夢を叶えているということのリノベブックで説明、発信していきたいというのが答えです。

二つ目の調査にバイアスがあるのではという御質問に関しては、このリノベブックを作る目的が、リノベーションで夢を叶えている方がどういうプロセスや地域の関わりによって自分の生き方をしているのかを中心に発信していきたいと思っているので、今後多くの方に調査していきたいと思っています。よりバラエティーあるいろいろな考え方を持っている方が長野に暮らしているということをお伝えするのも、リノベブックのもう一つの目的だと思っていますので、是非採用されましたら、バイアスとは私たちは思っている自覚はありませんが、興味深い本になっていければいいかなと思っています。

(事務局)

委員の皆様から他に御意見等があればお願いいたします。よろしいでしょうか。ありがとうございます。なお、いただいた御提案については、学生の皆様との事業の具体化や、総合計画への反映などについて、今後検討させていただきますので、よろしくお願いいたします。

改めまして、本日発表いただきました、3チームの皆様に感謝を申し上げるとともに、コンペに参加いただいた全チームの皆様に対して、素晴らしい御提案をいただきましたことに、感謝を申し上げたいと思います。学生の皆様ありがとうございました。

4 議事

(事務局)

それでは、次第4の議事に移らせていただきますが、議長につきましては、金物会長にお願いします。なお、時間ですが事務局としましては午後5時までにはと思っていますので、よろしくお願いいたします。

また、議事において、委員の皆様が発言される場合は、お手数ですが挙手していただき、事務局職員がマイクをお持ちしますので、御発言をお願いいたします。金物会長、議事の進行をお願いいたします。

(金物会長)

それでは、議事に入ります。議事の第五次長野市総合計画後期基本計画の「現況と課題」及び「目指す状態」(案)について事務局から説明をお願いします。

—事務局説明—

青木企画課長より、資料2に基づき、第五次長野市総合計画後期基本計画の「現況と課題」及び「目指す状態」(案)について説明。

(金物会長)

各作業部会で検討していただいたものですが、しっかりまとめていただき、コンパクトに説明していただきました。「現況と課題」及び「目指す状態」(案)について、御意見、御質問があればお願いします。

(藤原委員)

まず一つが、資料2の20ページの5-5-1の⑩「⑨」を踏まえた目指す状態の「多くの市民が SNS 等を活用した周知を通じて」とありますが、「SNSを活用して周知」は施策であって、目指す状態として書くのは、具体的に5年後の後期基本計画を時間的に見て目指したいのか、施策でいいのではないか。

もう一点が、施策5-1-1「乳幼児期から高等教育までの教育の充実」の「現況と課題」に「個別最適な学び」、「協働的な学び」が大事とありますが、目指す状態の「社会でたくましく生きる」は、「たくましく生きる」という表現が、どういう意味合いなのか。主体的にどんどんやってみようという表現と、社会でたくましく生きるのに必要な力を身につけていってみようという表現がイコールな部分もあれば、少しニュアンスとしても結局どういうことが大事なのか。目指す状態としても両取り感というか、フワッとしている印象を受けたので、「たくましく生きる」は具体的にどういうことを目指しているのか補足いただきたい。

(青木課長)

施策5-5-1「国際交流活動の推進」の目指す状態の「SNS等を活用した周知」については、委員の御指摘のとおり若干細かくピンポイントな気がするので、担当課と相談して、調整させていただきたい。

(永井教育次長)

施策5-1-1「乳幼児期から高等教育までの教育の充実」の目指す状態の「たくましく」については、最近予測不能な時代ということで、その中でこれからの子供たちが生きていかなければならない、自分の力で切り拓かなければならない、受け身になってはいけないというところで、そこの困難さを乗り越えていくのが「たくましい」という表現で使っております。主体的であったり協働的であったりの両側面で子供の資質、能力を伸ばしていきたい、ということなので、主体的であったり協働的であったり、さらに知・徳・体をバランスよく合わせていく中で、たくましく、切り拓いていく子供たちになるんだろうなという使い方をしています。

(横地委員)

資料2の14ページの施策4-2-3「安全な消費生活の確保」の⑤の現況と課題は、上の二つは現況と課題でいいと思うが、三つ目の「広報媒体と出前講座(消費者教育)

を有効に活用し被害手口を幅広く適時適切に周知し、地域住民の口コミや関係団体、地域の関係者との連携により地道に意識の醸成を図る」はちょっと入り込んでいる話なので、現況と課題とはちょっと違うのではないか。最後に「地道に意識の醸成を図る」とあり結論めいた話になっていて、それを図るということになっているので、手段としてはいいけれど、現況と課題という捉え方はどうなのかと思いました。

(青木課長)

市民への周知が不足していることを表わしていると思われます。「意識の醸成が必要であります」といった形に修正するように担当課と調整させていただきたいと思ひます。

(轟委員)

資料2の5ページの施策2-2-2「地域包括ケアシステムのシステムの進化・推進」の⑩目指す状態の「介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域の中で、必要な介護を受けながら最後まで自分らしく安心して暮らしている。」住み慣れた地域の「地域」の言葉が長野市全体を言っているのか、自分が生まれ育った地区を考えているのであれば、都市整備のところ、昨今の状況として中山間地域から街中へ高齢者が移住してきているトレンドがある話の中で、地域を生活している場所と捉えてしまうと、かなり住む自由というかどこで暮らしたいかの自由を奪ってしまう文言になりかねないと思ひましたが、地域の考え方についてお伺ひします。

(青木課長)

恐らく委員がおっしゃるとおり地域は長野市全体を意味している訳ではなく、元気な時に暮らしていた地域を指していると考えております。委員の意見について担当課と調整し、限定的にならないような形に改めさせていただきたいと思ひます。

(轟委員)

資料2の18ページの施策5-3-1「多彩な文化芸術の創造と活動支援」の⑤現況と課題の話題にあがっているような魅力的な鑑賞や環境、芸術というのは個人的な思いとしては、全国規模で行われるようなものを想像しているが、そのようなものを県北部で記載されている。むしろそのような魅力的なものは、長野や松本でやるのはあまり考えられない。金沢の21世紀美術館でやるようなものを、長野県長野市に持って来ようかという考え方になるのかなと個人的には思っています。このあたりの書き方「県北部の中核市として」という表現よりは、個人としては「県都として長野県内の市町村と連携しながら」などが、しっくりくるのかなと思ひます。北部に絞られた点についてコメントをいただきたいです。

(小林文化・スポーツ部長)

こちらの表現ですが、長野市自体が長野県北部の中核都市であり近隣の連携中枢都市と関係があるので、県北部という表現を使いました。御指摘を踏まえまして、事務局とそこを含めて、今後検討して参りたいと思います。

(小木曾委員)

資料2の5ページの施策2-2-2「地域包括ケアシステムのシステムの進化・推進」は高齢者によらずということだと思いますが、つまり介護が必要な人は高齢者だけではなく、ケガをしたり闘病中の人もいるので、そうすると政策の「高齢社会の形成」という「高齢」は付けた方がいいのか。また、目指す状態の「高齢者が」と限定してしまっているのか。幅広く表現された方がいいと思われれます。

(青木課長)

こちらについても担当課と調整させていただきたいと思います。

(梅干野委員)

担当させていただいている部会の自分の専門に関わることなので、コメントさせていただきます。資料3の74ページ「文化の継承による魅力ある地域づくりの推進」の現況と課題では、「指定文化財をはじめとする有形・無形の文化遺産」とありますが、目指す状態になると「指定文化財などが」となっています。指定文化財と限定せず、現況と課題にあるように「有形・無形の歴史文化遺産」という言葉を使っていた方がいいと思われれます。

(青木課長)

おそらく担当課では中に入れてしまったのではないかとと思われれますけれども、表に出した方が分かりやすいとは思われますので、また担当課と調整させていただければと思います。

(金物会長)

「現況と課題」及び「目指す状態」(案)について事務局より御説明があり、一部の施策について委員さんから御意見がありましたので、事務局と担当課で協議の上、来月の作業部会で御検討いただき、4月の審議会に改めて御審議いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同異議なし)

それでは、作業部会、審議会に改めて出すことにしますので、よろしく申し上げます。

5 その他

(金物会長)

次第5のその他がありますけれども、委員の皆様から、全体を通じて何か御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。予定しておりました議事は以上となります。それでは、事務局にお返しします。

6 次回以降の予定

(事務局)

ありがとうございました。事務局から次第6の次回以降の予定について申し上げます。記載にありますとおり令和3年度第1回目の審議会は、4月20日(火)の15時から、場所は第二庁舎10階の講堂を予定しております。

また、来月は24日と25日に第4回目の作業部会がございます。会場が若干変更になっておりますので、改めて御通知を差し上げますので、御確認をお願いいたします。なお、当日の作業部会の内容ですが、各施策の図表、主な取組、アンケート・統計指標、それぞれ担当課と調整中のものを加えますので、それを反映した形で、御検討いただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。資料等については、事前に送らせていただきます。

また、来年度のスケジュールについて会長及び副会長、各作業部会の部会長さんと御相談の上、今月中を目途に決めさせていただき、お伝えさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

4月に未来カフェを予定しており、若い世代や子育て世代の方から御意見を伺うことを考えておりますが、新型コロナの関係がありますので、こういった形で開催すれば良いか検討しております。会長や皆様と御相談させていただき、改めて御案内させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

では、以上をもちまして、閉会といたしますが、全体をとおして何か御質問等がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

7 閉会

以上をもちまして総合計画審議会を閉会といたします。ありがとうございました。